

花火大会

～埼玉県内のほとんどが荒川流域で行われています～

水難よけや地域復興など様々な思いを込めて花火が打ち上げられています。



荒川周辺で開催される主な花火大会



こうのす花火大会



寄居玉淀水天宮祭花火大会



熊谷花火大会

荒川と花火

埼玉の花火大会と荒川はとても深い関わりがあります。

埼玉県内で行われる花火大会のほとんどが、荒川河川敷で実施されており、はるか昔から水難よけや地域復興のために荒川に集まり花火を見るという行事が行われてきました。

花火大会の歴史は古く、寄居玉淀水天宮祭花火大会は1931（昭和6）年から続いています。

花火ひとつひとつには、第二次世界大戦の被害からの復興の想いはじめ、水天宮様を祭り、水難よけや安産、子育て祈願などの、地域の方の想い、願い、希望が沢山込められています。

スターミンや尺玉など、大きな花火が打ち上げられることが多く、子どもから大人まで、楽しめます。7月から10月にかけて、地域の方々の夏の風物詩となっています。

▶ 長い歴史！熊谷花火大会

熊谷花火大会の始まりは、1948（昭和23）年より開催された「大熊谷復興花火大会」であり、これは第二次世界大戦の空襲での被害から熊谷の地が復興したことを記念して開催されました。2017（平成29）年で68回を数える歴史のある花火大会です。

荒川運動公園、熊谷荒川緑地、熊谷桜堤のある荒川公園にて見る事が出来ます。毎年35万人の地域の方々、隣接する市の方々が訪れます。大橋下流から打ち上げられる花火が夜空を舞い、見晴らしの良さもあって、川幅の広い水面に反射する光景は夏を感じられます。

地元企業の提供による花火や結婚や誕生日等のメッセージを伝えられるメッセージ花火、花火師達が競い合う『スターメインコンクール』もさらに大会を盛り上げます。

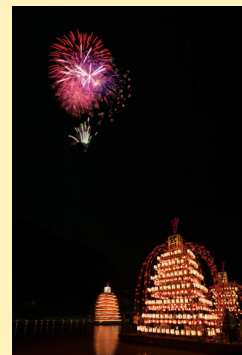


熊谷花火大会

▶ さらに長い歴史！寄居玉淀水天宮祭花火大会

1931（昭和6）年、玉淀を開発した保勝会の有志が下流樋の下の河辺山林にこの地方の漁師が水難よけに祭った水上様の石宮を発見し、水天宮様と合祀しておまつりしました。それから玉淀保勝会（現・寄居町観光協会）では、水天宮祭祭典の付け祭りとして、1931（昭和6）年8月5日に第1回玉淀水天宮花火大会を開催したことが始まりとなっております。埼玉県内でも一、二を争うほど歴史の長い花火大会です。

寄居町玉淀河原が会場になっており、お祭りには各町内から集められたボンボリや提灯で美しく、華やかに飾られた舟山車と城山をバックに打ち上げられる大花火が漆黒の水面に映し出される色彩は圧巻です。まさに関東一の水祭りにふさわしいです。



寄居玉淀水天宮祭花火大会
舟山車と花火の競演

▶ 燃えよ！商工会青年部！！このす花火大会

川幅が2,537m。日本一の川幅とされる鴻巣市と吉見町にまたがる御成橋のまさにその地点で、このす花火大会は開催されます。

開催開始は2001（平成13）年とまだ新しい花火大会ではありますが、鴻巣市商工会青年部の皆さんの「地域の振興発展と子ども達に夢や希望を与えたい」という熱い想い、願いから、始まりました。

また、『100%手作り』というキーワードのもとに、鴻巣市商工会青年部と主体として、地元の事業所をまわり、協賛金を集めたり、企画・運営・終了後の清掃等、大会の全てを約50名の青年部員とボランティアさんで行うという、全国でも珍しい手作りの花火大会となっております。

日本一の川幅の御成橋付近の河川敷の会場を活かし、世界一に認められた大玉正四尺や音楽と融合させたスターメインなど、関東最大級15,000発を打ち上げます。最後におくられる300連発で構成される魂のラストスターメイン『鳳凰乱舞』は感動すること間違いなしです。



このす花火大会！
圧巻のスターメイン！

アクセス



熊谷花火大会

交通：JR高崎線「熊谷駅」

下車、徒歩約15分

住所：荒川河畔（荒川大橋下流）



寄居玉淀水天宮祭花火大会

交通：東武東上線「寄居駅」

下車、徒歩約10分

住所：寄居町玉淀河原



このす花火大会

交通：高崎線「鴻巣駅」下車、

市内循環バスで6分、「田

間宮小前」下車徒歩5分

住所：鴻巣市糠田運動場

